

八百屋のSPAIC(パーソナル・インテグレーション)企業として
三晃 + 奈良三晃 = 新生フルックス

FRUX

を再定義する

frux とは、ラテン語で果実 (fruit) を意味します。
その他にも辞書には、大地の恵み (the fruit of the earth)、正直 (honesty)、道徳 (morality) など、
壮大な意味も込められています。

創業者 黒田一郎は、今から 35 年前、
当時、三晃青果に早朝アルバイトに来ていたフランス文学専攻の大学院生に
「新しいグループ名にふさわしい言葉を探してほしい」と依頼し、この frux に出会いました。

新生 FRUX は、仲卸事業を軸に、青果物のパーティカルインテグレーター (垂直統合型企業) を目指して参ります。
「川上」である産地と連携しながら、「川中」の立ち位置で、「川下」の直販まで、一気通貫で事業を行って参ります。

私どもフルックスグループは、これからも大地の恵みである青果物を中心に、愚直に商いを続けて参ります。
そして、弊社のミッションである「余すところなく売り切る、使い切る」に挑戦して参ります。

余すところなく
使い切る
売り切る

USE UP
AND SELL OUT
VALUABLE FOOD
WITHOUT
ANY WASTE



FRUX group 強靱化計画
↓
「変身」自在化
↓
「強」く「遅」く
supply (strong) robust

仲卸

を再定義する

創業者 黒田一郎は、元々は大手青果荷受会社の果実のセリ人出身。母 黒田竹美は、結婚前は愛媛県の中島みかんの農協の職員。2 人の仲卸人 杉林昭治、堤中清と共に 4 人で果実仲卸業を創業しました。創業メンバーたちは、夢を追いかけてながら、ずっと「市場流通」のど真ん中にいました。

近年「市場外流通」が増大しているのも事実ですが、卸売市場には、コーディネーター役 (需給調整、リアルのマッチングの場) という重要な機能があります。

フルックスグループは、卸売市場には、まだまだ存在価値が充分にあると考えます。今回の新生 FRUX は、青果物流通の「全体最適」を担い、調整機能役として、新しい時代に対応する仲卸人を目指して参ります。

仲卸事業は、
プロフィットセンター であるべきか?
コストセンター であるべきか?

地域深掘り (250 NO.1 戦略)
金と男と結びつける Value coordinator
Think globally. Act locally!

天候不順収割 極大化して来ている
HMR 事業
DTP 事業
長期値上げ化
リスクの拡大
全体的コストが莫大
・原料コスト
・人件費コスト
・その他のコスト
・その他コスト
・その他コスト
・その他コスト

この時代の環境変化 (Spedy) に対応
変身自在に (フレキシブル)



フルックスグループの青果直販事業は、今から 25 年前、大阪市中央卸売市場 東部市場の場外倉庫でスタートしました。それは、多くのお取引様が求められる青果物は、どうしても「中心等階級」に集中し、サイズや品質基準から外れた野菜や果物を売り切りたい一心で、倉庫の一角で売り始めました。その後、青果テナントとして入店して欲しいというご要請を受け、現在、関西圏を中心に 15 店舗展開させていただいております。

八百屋

を再定義する

フルックスグループの目指す八百屋は「自然体」です。つまり、計画的な販売は避け、その日のお値打ち品をプロの目利き力で選び抜き、生産者の皆様が手塩にかけられた青果物を「余すところなく売り切る」に挑戦して参ります。

中心業階級
2S S M L 2L 3L

Use up and sell out valuable food without any waste.



川上 Farm
産地の連携強化 (国内外)

川中 Wholesale maker/vendor
日本一階級別を有する仲卸会社
中間事業者 (x-o-o-o-o-o)
ダントツ!!

川下 Retail
西日本一の爆発的成長率100%有る (異次元販路力)
原点型八百屋



惣菜屋

を再定義する

フルックスグループの加工事業は、40 年前、奈良中央卸売市場内の天ぶら事業からスタートしました。そして、35 年前には、社員寮の倉庫の一角でカット野菜事業がスタートしました。

青果仲卸という「素材屋」が、高度な加工技術が求められる「惣菜屋」への無謀な挑戦でもありました。その後、天ぶら材料、惣菜、弁当、フレッシュサラダ、ミールキット、おせち、冷凍かき揚げなど常に増大する「食の外部化」への対応をして参りました。

これからもフルックスグループは、青果物を中心に、食事の解決業 (ミールソリューション)、惣菜のわかる八百屋としての立ち位置で、生産者の皆様が手塩にかけられた青果物を「余すところなく使い切る」に挑戦して参ります。

「自信と誇り」の持てる企業風土の醸成
FRUX 21 棟 (2023)
「先が見通し明確」

ものづくりの向き合い方から根本的に見直す

